

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2872100363		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき高砂		
所在地	(〒 676-0805) 兵庫県高砂市米田町米田256-3		
	電話	079-434-4696	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年5月25日	評価確定日	平成21年8月14日

【情報提供票より】 [平成21年4月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	13人	(常勤13人) (非常勤0人)	/ 常勤換算13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	23,000円
敷金の有・無	有り(円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り(30,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 50円
	または、1日あたり		900円

(4) 利用者の概要 (平成21年4月1日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性2名) (女性16名)		
要介護1	7名	要介護2	8名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均82歳 … (最低72歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 魚川医院	いわた歯科医院
---------	-------------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「宝殿駅」に近い住宅街にあり、周辺にはスーパーや商店も多く、日常生活に便利なところ。事業主体である「ほおずき」は、「個人の尊厳と家族の安心」を顧客満足の原点に、認知症介護サービスを提供する事業所として、ケアの質の向上に努め、また、安全面(リスク管理)にも力を入れ取り組んでいる。ホーム独自の理念としても「笑顔が素敵で、思いやりのある介護のプロに」と掲げ、施設長をはじめ職員一人ひとりが目標を持ち、日々の業務に励んでいる。利用者それぞれの状態も細かに把握しており、家族の安心に繋がっている。地域交流も積極的で、家族や地域の方々が気楽にホームを訪問できる雰囲気づくりがなされている。◎参考までに、前回と前々回の評価における資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①情報の共有化を進め、その成果が上がってきている。②利用者による家事手伝いなどは継続中。③家庭菜園での野菜づくりについても進めている。④栄養管理や終末期の対応については今後も検討し進めてゆくことになっている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 職員全員で行ない、施設長がとりまとめた(意見の取りまとめに時間が掛かったが、この取組みが職員の意識向上に繋がった)。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 家族アンケートからも、運営推進会議に関する理解が深まってきていると感じられる。会議では事故事例やヒヤリハットについても報告をしており、これらの取組みも施設への信頼を高めている。家族の参加を輪番制にしたことで多くの人が参加でき、会議における発言や提案も増えた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 「ほおずき通信」による報告のほか、行事報告、金銭管理報告もしっかりなされている。家族への報告と意見交換の機会も作られている。今後は、家族の関心の多いテーマについて学習の機会を設ける予定。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に参加している。近隣との関係を築くには相応の年月が必要であるが、地元の自治会長に認知症介護に理解を得ており、これをきっかけに地域交流(小学校の行事、地元の秋祭り、清掃行事などへの参加…等々)が進み、良い関係ができています。

◎居心地のよい共用空間づくり

フロア掲示物(感染症対策など)は家族の目にもとまるように…



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

日課のラジオ体操



◎居心地よく過ごせる居室の配慮

ご家族との思い出の品を部屋に



◎運営に関する家族等意見の反映

玄関に設置したご意見箱



◎理念を実践するための制度の理解と活用

職員紹介ボードを設置





▲ ホーム外観



▲ 開放感のある明るい庭

▼ 手作りカレンダー
(入居者と職員の協働)



職員の休憩場所も設置 ▲



▲ レトロな品物を飾る(入居者の心を和ませる工夫) ▲
品物は、家族や近隣の方々から提供を受けたもの



▲ リビングの一角にある畳スペース

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほおずき高砂」独自に「笑顔が素敵で思いやりある介護のプロに」をテーマとして掲げている。散歩コースでの挨拶や、行事への案内など、馴染みの関係を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有に関して、より明確になり、しっかりできている。職員との面接において、職員各々の意識付けを確認し、具体的な目標を設定するよう管理者がアドバイスしている。新人職員の研修への取り組み時には、3カ月間のフォローを行っている。	○	新人職員が不安なく学べ、段階的スキルアップができるよう、今後も新人育成に力を入れてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、秋祭りや地域清掃にも参加している。職員だけでなく、入居者も地域の一員としての自治会の行事に参加している。	○	地元の老人会や自治会が行っている「いきいきサロン」でも交流ができるよう、自治会長への働きかけをしているとのこと、取組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでは管理者が中心となってまとめていたが、今回は職員全員に取組んでもらうよう、個々の得意な分野や関心のある設問を割り振り、全員が参加し自己評価をまとめた。これにより、第三者評価の意味や目的が職員に浸透してきた。	○	今後も継続を願いたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、事故の報告とリスクマネジメントを別添資料にして説明することにし、利用者の家族や関係者に好評である。ヒヤリハットを含め、具体的な課題が見えてくることで、会議での意見交換も活発になっている。家族の参加者を固定せず、輪番制にしている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	キャラバンメイト(3名)を活用し、市や社会福祉協議会とも連携して、「認知症サポーター要請講座」開催へ向け、事を進めている。年度内に周辺自治会への呼びかけをし、他事業所との話し合いをする予定である。小学校の総合学習(介護体験)も受け入れている。	○	講座の開催など、地域における拠点作りとしての取組みに大いに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月送付している「ほおずき通信」で、入居者の様子や行事の内容を知らせている。面会時には個々の状態を伝え、また、金銭出納や職員のお手紙、利用者の写真などを送付することでコミュニケーションを図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヵ月に1回開催される運営推進会議において、家族の意見を必ず聴いている。意見箱以外にもアンケートを配布するなど、いろいろと工夫をしているが、なかなか率直な意見を出してもらえず、このことが今後の課題となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との日々の関わりに重きを置いており、正職員を多くしている。昨年は、職員の入替わりが多く、環境の変化を最小限に抑えるのが大変であった。	○	職員が入替わることでの影響を少なくするには、臨機応変に臨時職員が応援できるよう体制づくりも検討されてはどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人(ほおずき)全体で取り組んでおり、定期的に、かつ、きめ細かな研修計画が作成されている。個人の目標設定に対するフォローや外部講師の導入、OJTの活用なども行き届いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な勉強会を通じて、他法人との交流が積極的に行われている。地域における介護支援専門員との交流もなされ、相互訪問によるネットワークができています。	○	法人ごとに情報の入手についての意識の違いもあるだろうが、工夫をして取り組んでほしい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームとデイサービスの合同行事も行っている。1階のデイサービスを利用することで、顔馴染みの入居者やスタッフができるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「リビングパートナー」という名称を用いており、『ともに暮らす』意識付けをしている。利用者の人生経験を通じて学ぶことも多く、昔の遊び(あやとりなど)も教えてもらったりしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時におけるアセスメントを基礎に、日常の見守りや会話の中から、本人の意向や思いを把握できるよう、個人のケース記録とチェック表を活用している。	○	継続的なアセスメントによる利用者の介護計画への反映は大切なものであり、今後も一層の努力をお願いしたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作成するにあたり、家族や本人の意向は勿論のこと、担当スタッフや個別記録からカンファレンスに必要な内容を汲み取って、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回の個別カンファレンスを実施し、状況の変化等に沿った計画の見直しを行っている。カンファレンスにおいて家族の意見を聴けていない場合の対応は、今後の課題として考えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域との交流や、地元機関との連携ができており、1階デイサービスを活かした取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの家族が協力医をかかりつけ医としているが、家族や本人が希望する医療機関についても、家族付き添いで受診している。認知症の専門医との連携が取れており、その点でも安心である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とのコミュニケーションの重要性を認識しており、早い段階から、家族と相談しながら医師の考えなどを話す機会を持つようにしている。具体的な取り組みについては今後の課題である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時に書面で確認をしており、また、法人の研修においても記録や個人情報の取扱いについて徹底した教育がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当職員が、その人の生活リズムに注意して生活を支援している。利用者への声かけも、個人の履歴を把握して行うようにしており、利用者主体の対応がなされている。職員の数が限られており、遠方への外出希望には対応しきれないのが実情である。	○	すべての希望を聞くことには限界があるが、できる範囲でお願いしたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買出し、食事の準備など、利用者の出来ることには携わってもらっている。苦手な食材のときは、別メニューでの対応もなされている。茶碗や湯飲みなども個人の使い慣れた物を使うようにしており、家族的な雰囲気の中で声かけしながら食事を楽しんでいる。	○	ホームで提供している料理(全て手作り)のメニューや内容(おおまかなカロリーなど)を家族にお知らせすることも検討してみてもどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯はなるべく本人の希望時間に合わせるよう努力している。ADLの低下に対しては、一部シャワー浴へ切り替えもなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の手入れや新聞の取り込みなど、個人の出来ることをしてもらっている。得意なことには積極的に関わってもらい、役割意識や意欲・自信に繋がるような活動を取り入れてゆこうとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩以外にも、デイサービスの車で、公園やレストランにも出かけている。誕生日には個々に外食したり、家族との外出も支援している。	○	家庭菜園で、季節の野菜(ゴーヤやナス、きゅうりなど)作りも予定している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に、ユニットの出入り口は夜間以外は施錠をしない方針であるが、人手が手薄になる場合は止むを得ず施錠する場合もある。居室の施錠は、本人の意思に任せている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ADLの低下した利用者には、主に1階を利用頂くなど、状態に応じた配慮がなされている。自治会からの依頼もあり、地域の緊急避難の場所になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは、個人の嗜好を把握したうえで提供されており、日々の食事摂取量や水分量は個別に記録されている。嚥下し易くなる配慮や、糖尿病の定期検査や食事量制限など、細かな対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の採光や通風はたいへんよい。1階には庭があり、2階ベランダにはプランターも設置されている。各フロアには手作りのカレンダーや季節に合った掲示物が飾られ、清潔で、気持ちの良い居住環境が整っている。室内の清掃は、利用者の生活機能維持トレーニングの意味も含め、職員と利用者が一緒にやっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真を活用した回想法を意識された取組みがなされている。家族の方に、馴染みの家具類を居室に持ち込んでもらうように働きかけている。火災の危険を伴わないのであれば、好みに合わせた品を持ち込んでもらっている。	○	利用者それぞれにとって落ち着く居場所になるよう、今後いろいろと工夫してもらえると有難い。

※  は、重点項目。